

第674回番組審議会報告

2023年1月11日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、佐藤友美子副委員長、川瀬慈委員、鯨岡秀紀委員
栗栖義臣委員、津村記久子委員、西村久美子委員、増山実委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井取締役、北野取締役、中野取締役、
田淵総合編成局長、小竹プロデューサー、佐川エキスパート、
柴田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆議事の概要

テレビ番組 「発掘！アーカイブ探検隊」

～夜はクネクネ（1983年4月29日）～について

（2022年12月4日深夜0時50分～1時50分0A）

【番組概要】

テレビ放送開始以来、毎日放送では数多くの番組を放送してきました。ライブラリーに貯蔵されている数えきれないほどの放送テープから厳選した懐かしい映像を「解説付き」で放送する「新・再放送番組」です。番組の選定については、当時の出演者及び制作者へのヒアリング、ロケ地の現在のリサーチ、昨今のコンプライアンスとの照らし合わせを行い、視聴者の皆さまにご理解いただける内容を心がけています。

【各委員の主な意見は次の通り】

- *アーカイブの番組は、アイデアとしては挙がることはあってもなかなか実現には至らない。こうして番組の実現までこぎ着けたスタッフに最大限の賛辞を贈りたい。
- *放送されていた時代の方が大切にしていたものや、時代の雰囲気やアーカイブ動画から伝わってくるのはすごくいいと思った。
- *当時の出演者や関係者のコメントを紹介しているので、より興味深く見ることができた。アーカイブを有効に活用できていると感じた。

- *一次情報こそが面白いという圧倒的な信頼と、視聴率とは関係なく面白そうなほうへ動こうとする嗅覚や音楽の使い方など、今のテレビ局が失ってしまったものが存在していて、考えるきっかけになればと思う。
- *この番組には等身大の市井の人々の姿がそのまま記録として残されていて、100年後、200年後に1980年代の大阪がどんな様子だったかを知る上で貴重な映像である。
- *あちこち声をかけた時に、当時の人たちは嫌な顔もせずに協力してくれている。当時と今とメディアに持たれているイメージの変化を感じた。
- *せっかく過去の映像をこういう形で見せるのであれば、当時の場所が今どうなっているのか、そこで歩いた場所が今はどれだけ変化しているのかという映像が見たかった。
- *番組の裏側を見せるとか、若い世代に人気のある人が宣伝するなどすればもっとたくさんの人に見てもらえると思った。
- *過去の映像を放送するにあたり、プライバシーに関わる内容もあるが登場した人にどこまで確認しているのか。現在の放送では関係のない人が映っている場合はモザイクをかけたが、例えば冒頭にお断りのテロップを出すなどしてはどうか。
- *安易に何でもモザイクをかけるのではなく、細心の注意を払って出せるものは出すという方針でやっていただきたい。
- *多くの視聴者に見てもらいたいのか若手の制作者に見せたいのか整理した方がいいのではないかな。両方ともやりたいのなら、その説明を丁寧にすることが必要ではないか。
- *アーカイブを今後どのように活用していくのか聞きたい。
- *アーカイブを活用することはテレビの文化を高めていくために不可欠なことだと思う。研究者が過去の番組の内容や出演者など簡単に調べることができるようデータベースを充実させて公開する必要があるだろう。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 当時収録した時に、あえて映り込みに来てくださっているという意思是尊重したほうがいいという意識のもと、放送されたモザイクなしのものをそのまま活用しているが、個人情報に引っかかりそうだとか、今生活していらっしゃる方に影響を与えてしまいそうな映像は放送しない。

- * 過去の番組のアーカイブは、毎日放送として貴重な財産である。番組のほかにも配信イベントなど新たな形はあり得ると思う。

- * 社内向けにはなるが、過去こんな演出があっってこういう番組の作り方があったということを若手の制作者に共有して、新しい番組に活かしていければと思う。

以 上